

エコアクション 21 環境経営レポート

対象期間：令和5年4月～令和6年3月

発行年月：令和6年5月



川 根 本 町



～ 目 次 ～

基本理念	．．．．．	P2
環境経営方針	．．．．．	P3
1 川根本町の概況	．．．．．	P4
2 環境経営目標	．．．．．	P11
3 エコアクション 21 に基づく町役場の取り組み	．．．．．	P34
4 令和5年度の活動の内容	．．．．．	P55
5 町が実施する町民向け補助事業	．．．．．	P58
6 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	．．．．．	P60
7 内部環境審査の結果報告	．．．．．	P62
8 代表者による全体評価と見直しの結果	．．．．．	P63

基 本 理 念

近年、地球温暖化をはじめとして、経済活動が地球の環境に与える影響の大きさが広く認識されるようになりました。自然界における環境は大気・水・土壌・生物等の間を物質が循環し、生態系が微妙な均衡を保つことによって成り立っています。私たちを取り巻く環境問題は、健全な物質の循環が阻害され、資源やエネルギーを大量に消費する現代社会のあり方そのものに根ざしています。このため、現在の社会経済の構造、私たちの生活様式と価値観を環境の視点からも変革していくことが求められています。

一方、私たちの町は、古くから豊かな自然の恵みを享受し、自然を持続的に利用する知恵と技、自然を慈しむ文化を育んできました。それが自然共生型の生活様式をつくりあげ、ユネスコエコパークの認証へと繋がり、広く認知されるようになったものと思います。今後もこの自然を守り育むとともに、これまで培ってきた知恵を活かし、環境負荷を抑えた方法でその活用を図り、自然共生型の暮らし方、物づくりや連携・交流のあり方を提案・発信していくことが「川根本町」の使命と考えています。

こうした認識の下で、環境への負荷を抑える取り組みを組織的に行う取り組みとして、川根本町役場は、「エコアクション21」に取り組んでまいりました。職員が自分の仕事を通じて、環境との関わりに気付き、環境負荷を減らすため、目標を設定し、計画的に取り組む、結果を評価し、見直し実行する、PCDA サイクルに則った持続的な取り組みを実践してまいります。この取り組みを通じて、環境への取組の推進だけでなく、経費の節減など行財政改革の推進、住民の生活満足度の向上、自治体としての法令順守など、まちづくりにおける行政サービスの品質や信頼性の向上を目指します。

川根本町のキャッチフレーズ、「水と森の番人が創る癒しの里 川根本町」～豊かな自然、お茶と温泉に彩られた、だれもが安心して暮らせるふるさと～の実現には、これからも自然共生型の社会活動が欠かせません。そのために、エコアクション21の取り組みが、その「手段」であり、川根本町がこれまで培ったノウハウを活かすことが求められます。役場の組織だけでなく、町全体で目的を共有しながら、名実ともに豊かなまちづくりに取り組むことが重要と考えます。



環 境 経 営 方 針

- ①役場の職員は、「水と森の番人」という川根本町の使命を自覚し、環境負荷の低減に配慮した業務を執行します。住民の生活満足度の向上を図るため、広く町民にも啓発・広報・事業活動を持続、推進します。
- ②リサイクルやグリーン調達を積極的に行い、公共工事やイベントなどの事業における環境負荷抑制に努めます。
- ③業務における省資源・省エネルギーを実践し、電気・石油・水・紙の使用量を減ずることに努めます。
- ④環境関連の法令及びその他の要求事項を遵守し、自然共生型社会の実現に取り組みます。
- ⑤川根本町環境基本計画を制定して、環境にやさしい社会を実現するための施策を推進します。
- ⑥環境経営目標、環境経営活動計画を定め、かつそれを定期的に見直すことにより経営の継続的改善に努めます。
- ⑦この環境経営方針は、全職員に周知させ、町民にも公開します。

平成19年7月27日 制定

平成20年3月10日 改定

令和3年4月1日 改定

令和4年4月1日 改定

川根本町長 園田 靖邦



1 川根本町の概況

1 位置・地勢

本町は、静岡県の中央部に位置し、東は静岡市、南は島田市、西は浜松市に隣接し、北は長野県の県境となっています。

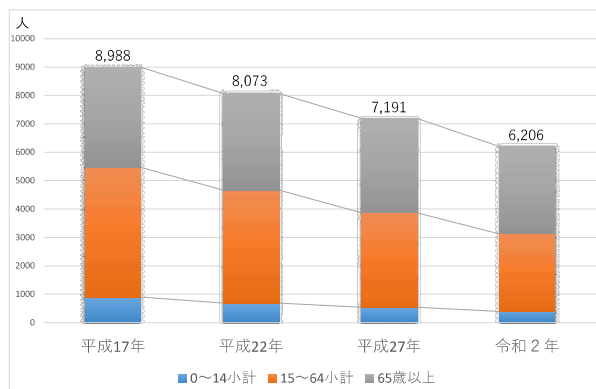
町域は大井川に沿った東西約 23 km、南北約 40 km の細長い形で、面積は 496.72 km² (県全体の約 6.4%)、このうち約 94% を山林が占めております。



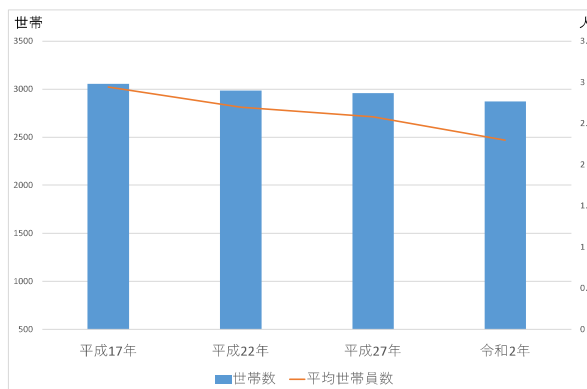
2 人口・世帯

令和 6 年 4 月 1 日現在の人口は 5,806 人、世帯数は 2,677 世帯、平均世帯人員は 2.17 人/世帯で、人口及び平均世帯人員は年々減少傾向にあります。住民基本台帳（外国人を含まない）によると、年齢階層別人口は年少者が 5.8%、生産人口が 42.4%、高齢人口が 51.8%で、年々高齢化が進んでいます。

「第 2 期川根本町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」の推計によれば、今後も人口の減少は続き、令和 12 年には人口は 5,241 人まで減少し、さらに高齢化が進むと予想されています。



人口の推移



世帯数の推移

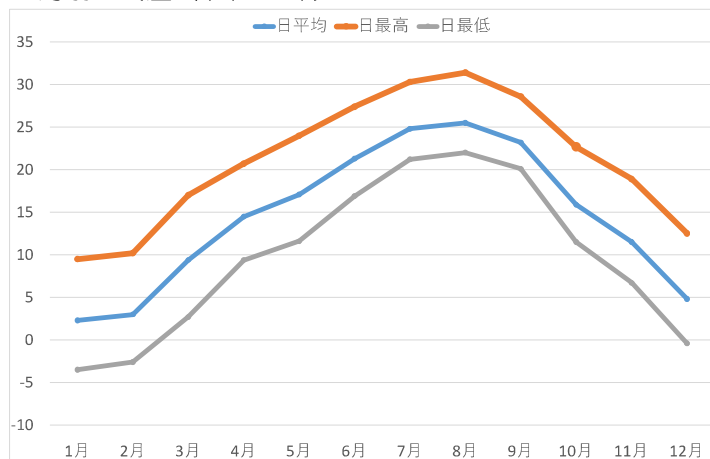
【資料：川根本町統計要覧令和 4 年版】

3 気象

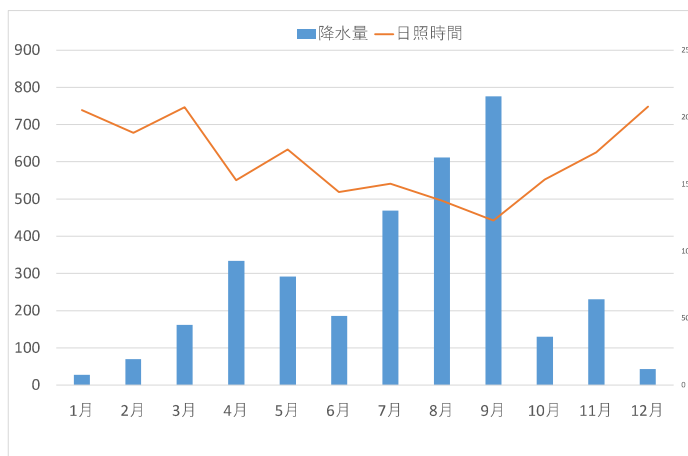
本町は太平洋岸気候に属し、夏は太平洋の高温多湿な空気が吹き込むため雨が多く、冬には北寄りの季節風の影響により、空気は乾燥して少雨となります。最近 5 年間の平均気温は、14.5℃で、気温年較差や日較差が大きい地域です。年間降水量は 3,000 mm で梅雨（6 月）から台風（10 月）の時期が多くなっています。5 年間の平均風速は

0.6m/s と比較的弱く、冬季に風が強くなります。また、冬季は降雪は少ないものの、氷点下になることが多くあります。

月別の気温（令和 4 年） 【資料：川根本町統計要覧令和 4 年版】



月別の降水量と日照時間（令和 4 年） 【資料：川根本町統計要覧令和 4 年版】



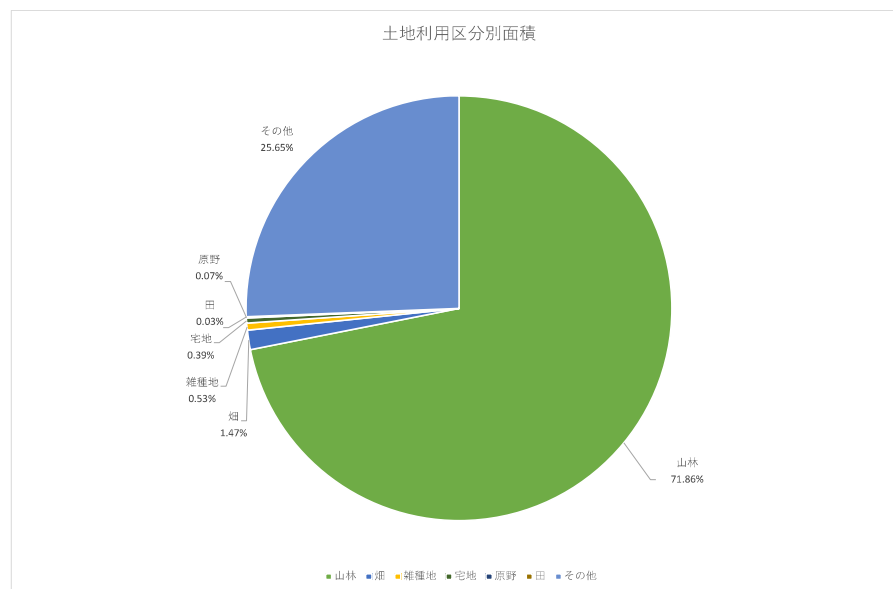
気象概要

	気温(°C)			降水量(mm)		日照時間(h)
	日平均	最高	最低	年間	日最大	年間
平成30年	14.5	36.9	-8.7	3576.0	243.0	1868.0
令和元年	14.7	35.8	-6.9	2897.0	294.0	1741.1
令和2年	14.6	39.6	-5.9	3628.0	236.5	1842.1
令和3年	14.5	37.7	-6.6	3502.0	240.5	1589.1
令和4年	14.4	39.0	-8.0	3331.0	230.0	2177.9

【資料：川根本町統計要覧令和 4 年版】

4 土地利用

令和4年度の土地地目別面積をみると、山林（71.9%）が最も多く、畑や宅地などはいずれも1%前後とわずかです。



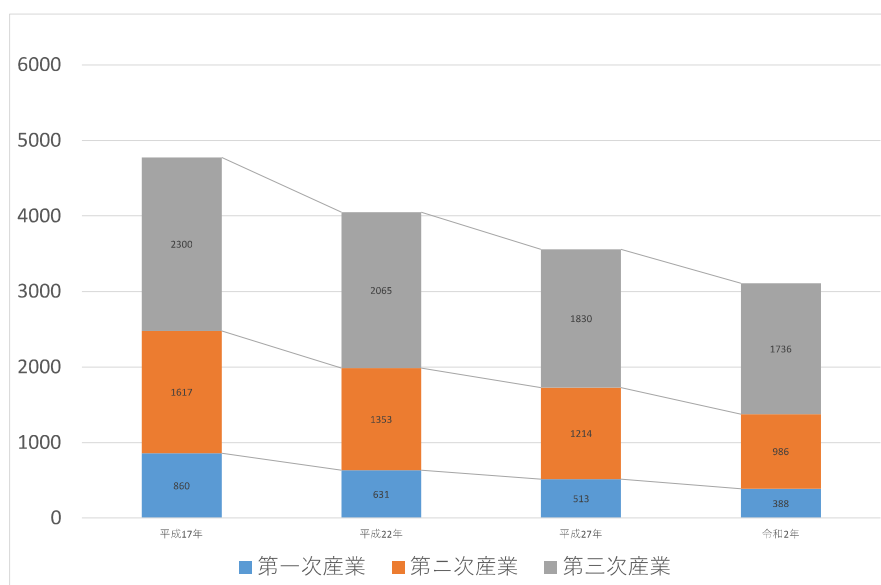
土地利用区分面積（令和4年度）

川根本町統計要覧令和4年度版

5 産業

令和2年度の産業別就業人口は3,110人で総人口の52.2%を占めています。産業別では第1次産業が388人（12.5%）、第2次産業が986人（31.7%）、第3次産業が1,736人（55.8%）となっており、第3次産業が全体の半分を占めています。

産業別就業人口の推移は平成17年と比較し第1次産業が約55%、第2次産業が約40%、第3次産業約25%それぞれ減少しています。



産業別就業人口（15歳以上）

6 町の代表者・環境管理責任者

代 表 者

町長 そのだ やすくに
蘭田 靖邦

責 任 者

副町長 あきもと しんや
秋元 伸哉

7 環境担当課

川根本町くらし環境課環境政策室

電 話 0547-56-2236 FAX 0547-56-1117

E-mail kurashi-kankyo@town.kawanehon.lg.jp

ホームページ <http://www.town.kawanehon.shizuoka.jp>

8 事業活動の内容

一般行政事務、保育、簡易水道事業などの町民の日常生活に密接に関係する行政サービスの提供。

9 事業の規模

令和5年度一般会計当初予算 71億5,100万円

職員数（令和6年4月1日現在） 243名（嘱託・会計年度任用職員を含む）

10 エコアクション21 認証取得の範囲

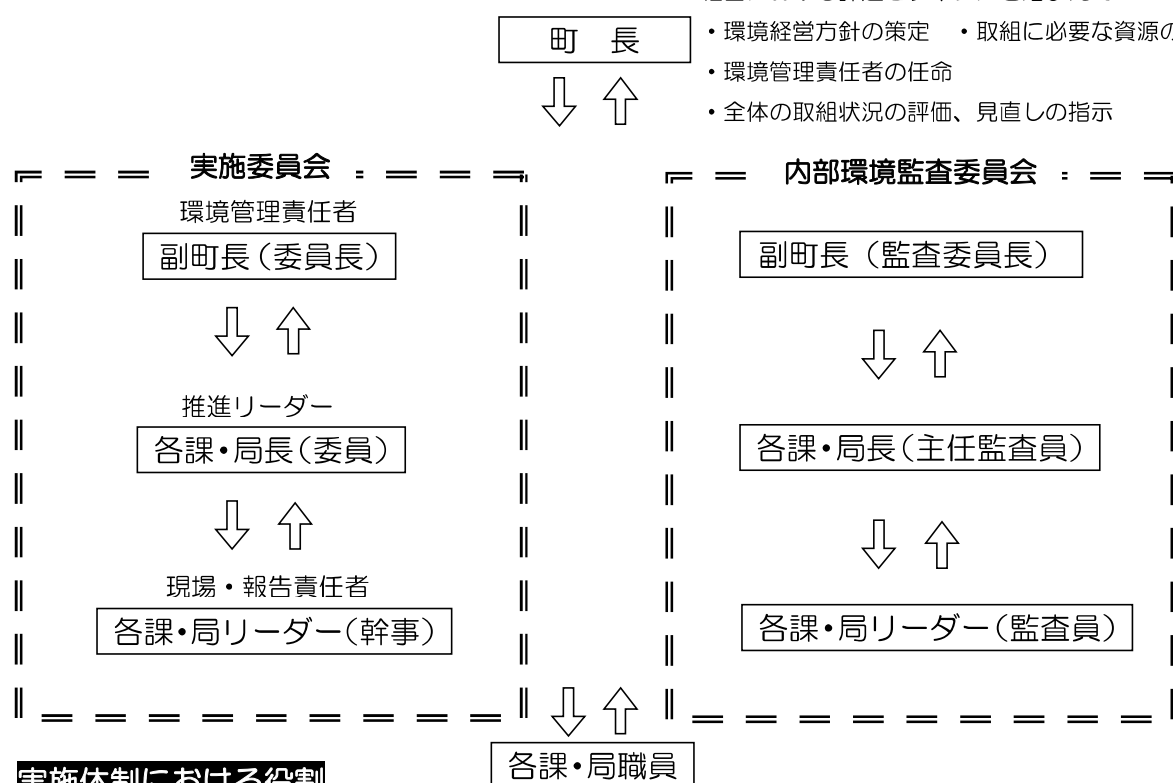
区分	課・局名	室・施設名
本庁舎	総務課	財務管理室、行政庶務室、自治防災室、山村開発センター、健康増進施設
	経営戦略課	まちづくり推進室、定住・移住推進室、お試し住宅
	デジタル推進課	デジタル推進室
	産業振興課	農業室、林業室、商工業室、フォーレなかかわね茶茗館、農林業センター
	建設課	建設事業室、排水機場（千頭、田代、桑野山） 外灯（ふれあい橋、中徳橋、千頭田代線、接岨トンネル）
	高齢者福祉課	長寿介護室、地域包括ケア推進室
	健康福祉課	健康づくり室、子ども支援室、地域福祉室、いやしの里診療所
	税務住民課	税務室、戸籍住民室
	会計課	
	くらし環境課	環境政策室、生活環境室、クリーンピュア川根本町、温泉スタンド、EVスタンド
	議会事務局	
総合支所	教育総務課	教育総務室、教育推進室、学校給食共同調理場
	社会教育課	社会教育室、文化会館、本川根B&G海洋センター、資料館やまびこ
	観光交流課	観光交流室
消防署	総務課	静岡市消防局島田消防署川根北出張所
水道施設	くらし環境課	南部簡易水道施設、北部簡易水道施設
斎場	くらし環境課	中川根斎場、本川根斎場
塵芥施設	くらし環境課	中川根ゴミ処理場、環境美化センター
保育園	健康福祉課	三ツ星保育園、桜保育園、子育て支援施設ひだまり、子育て支援施設こもれび
小中学校	教育総務課	中川根中学校、本川根中学校、三ツ星小学校、本川根小学校
福祉施設	高齢者福祉課	福祉センター、憩の家いすみ、中川根デイサービスセンター、生きがいの郷 みどりの丘えまづ、瀬平高齢者デイサービスセンター（まんてん）
キャンプ場	観光交流課	池の谷ファミリーキャンプ場、くのわき親水公園キャンプ場、八木キャンプ場、三ツ星オートキャンプ場、不動の滝自然広場オートキャンプ場、アプトいちしろキャンプ場
温泉施設	観光交流課	接岨峡温泉会館、白沢温泉もりのいすみ、寸又峡温泉美女づくりの湯
宿泊施設	観光交流課	ウッドハウスおろくぼ、もりのコテージ
公衆トイレ	観光交流課	千頭駅前トイレ、四季の里トイレ、奥泉駅前トイレ
その他観光施設	観光交流課	なかかわね三ツ星天文台、長島ダムふれあい館、奥大井音戯の郷

11 環境マネジメントシステム実施体制

【代表者の役割】

経営における課題とチャンスをつまみとって

- ・環境経営方針の策定
- ・取組に必要な資源の用意
- ・環境管理責任者の任命
- ・全体の取組状況の評価、見直しの指示



実施体制における役割

【実施委員会】

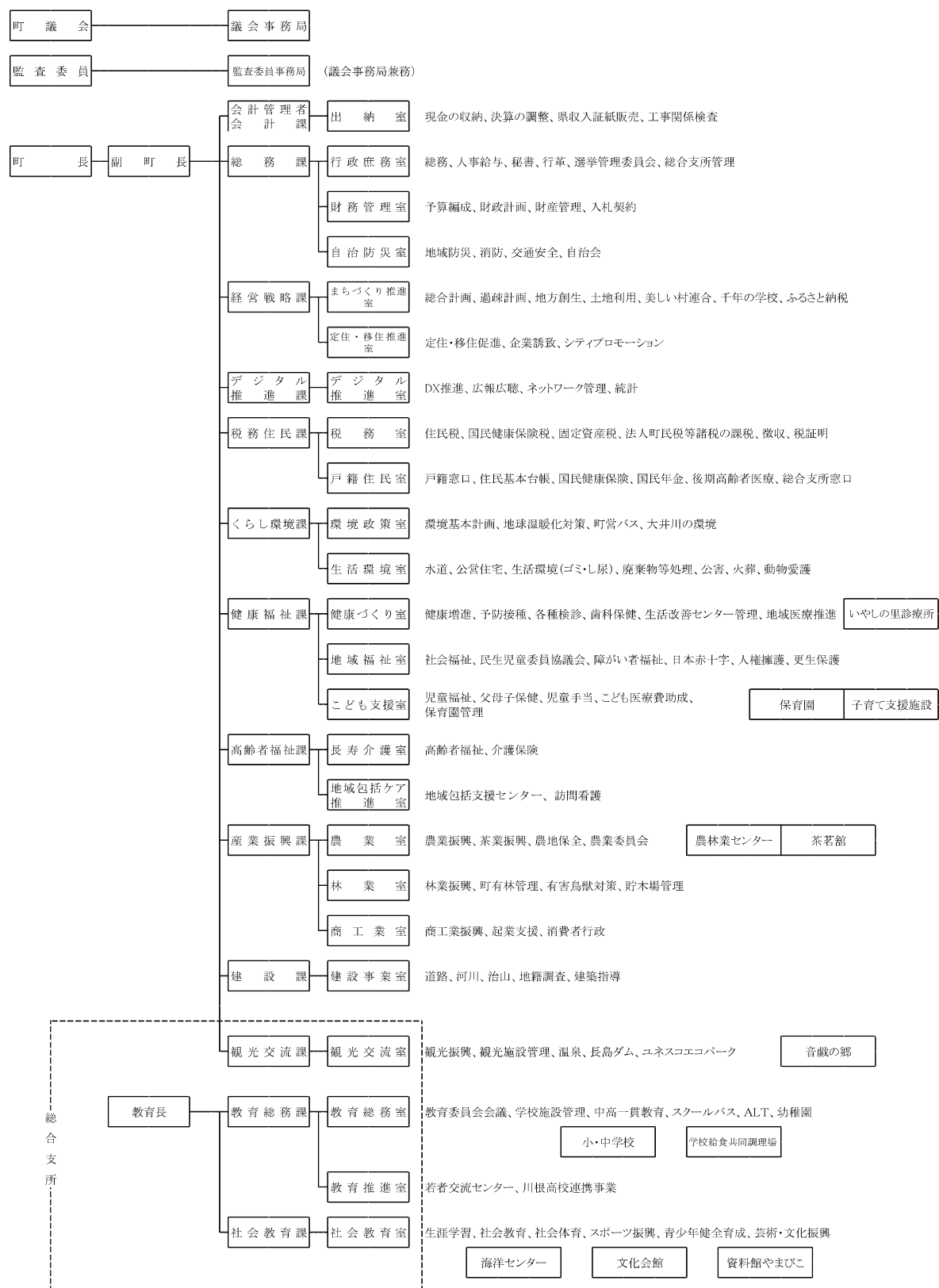
- 委員長（副町長）
 - ・実施委員会の統括
- 委員（各課・局長）
 - ・各課・局におけるエコアクション推進活動の統括
- 幹事（各課・局リーダー）
 - ・各課・局におけるエコアクション推進活動のリーダー的業務
 - ・各課・局における温室効果ガス等排出状況の報告及び検証

【内部環境監査委員会】

- 委員長（副町長）
 - ・内部環境監査の計画及び実施の指示と統括
 - ・町長への内部環境監査の結果報告とシステム改善のための助言
 - ・エコアクションガイドライン不適合事項への再発防止策について要求
- 主任監査員（各課・局長）
 - ・実施計画に基づく内部環境監査の実施
 - ・監査報告書及び監査統括報告書の作成
 - ・被監査部門に対するシステム改善のための提案
- 監査員（各課・局リーダー）
 - ・主任監査員の補助

12 役場組織図（令和5年4月1日現在）

令和5年度 行政組織図（令和5年4月1日施行）



13 施設の概要

【庁舎ほか】

施 設 名	所 在 地	備 考
本庁舎	川根本町上長尾627	
総合支所	川根本町千頭1183-1	
山村開発センター	川根本町上長尾627	健康増進施設
文化会館	川根本町東藤川909-1	
本川根B&G海洋センター	川根本町東藤川1220	
学校給食共同調理場	川根本町青部18	

【保育園 他】

園 名	所 在 地	備 考
三ツ星保育園	川根本町上長尾570-1	
桜保育園	川根本町東藤川915	
子育て支援施設ひだまり	川根本町元藤川201-1	
子育て支援施設こもれび	川根本町地名637-1	

【小中学校】

学 校 名	所 在 地	備 考
中川根中学校	川根本町上長尾744	
本川根中学校	川根本町田代530	
三ツ星小学校	川根本町上長尾1000	
本川根小学校	川根本町千頭1236-6	

（注）令和6年4月1日以降の小中学校一貫教育統合化

- 1 三ツ星学園：三ツ星小学校 ＋ 中川根中学校 所在地：川根本町上長尾1000
- 2 光の森学園：本川根小学校 ＋ 本川根中学校 所在地：川根本町千頭1236-6



第3章 計画の目標

第1節 基本理念

本計画の基本理念は、「川根本町環境基本条例」の基本理念とします。

【「川根本町環境基本条例」の基本理念】

第3条 環境の保全及び創造は、町民が健康で文化的な生活を営む上で必要となる良好な環境を保全するとともに、その環境が将来にわたって享受できるように適切に行われなければならない。

2 環境の保全及び創造は、全ての者が、環境への負荷の少ない持続可能な社会を構築することの重要性和責務を認識し、それぞれの公平な役割分担の下で自主的かつ積極的に行われなければならない。

3 環境の保全及び創造は、郷土の多様な風土と文化を継承しつつ、人と自然との健全な共生が確保されるように推進されなければならない。

第2節 望ましい環境像

「望ましい環境像」とは、環境課題を踏まえた上で、本町がこれからどのような環境を目指して計画を進めていくのかを示す長期的目標です。

本計画の望ましい環境像は以下のとおりです。



第3節 環境目標

望ましい環境像を実現するための柱として環境目標を定め、この環境目標の基に、具体的な施策を展開します。

環境目標 1 自然と人々の営みが調和するまち

森林、農地、河川などの豊かな自然環境を保全するとともに、水循環の確保、動植物の保護・管理、人と自然とのふれあいの促進などを通して、自然と人々の営みが調和した自然共生社会を目指します。



環境目標 2 きれいな水と空気を守るまち

本町の特徴であるきれいな水と澄んだ空気を今後も保全していくため、日常生活や事業活動から発生する水や大気の汚染、騒音・振動、悪臭などの問題を未然に防止し、安全・安心なまちを目指します。



環境目標 3 ごみのない資源の循環するまち

環境への負荷が少ない持続可能な社会を実現するため、3R（ごみの減量、再利用、再資源化）の推進や適正処理の推進を図り、今ある資源を最大限有効活用した循環型社会を目指します。



環境目標 4 脱炭素な暮らしを実践するまち

私たち一人ひとりの行動が、地球環境にも影響を与えていることを全ての町民が自覚するとともに、エネルギーの有効利用による温室効果ガスの低減と森林等による吸収の促進により、脱炭素社会を目指します。また、進行する地球温暖化への適応策を推進します。



環境目標 5 環境について学び、行動するまち

子どもから大人まで、学校教育や生涯学習を通じた環境教育を推進するとともに、環境リーダーの育成や環境保全活動の活性化、環境情報の収集・発信などにより、環境の恵みに感謝する心を育て、本町の豊かな環境を将来に継承します。



第4章 主体別の取り組み

計画の体系

環境目標	取り組みの方向	取り組みの項目
1 自然と人々	1 森林の保全と適正	①適正な森林整備を推進します

の営みが調和するまち	管理	②森林認証を拡大します
		③木材や間伐材の需要を拡大します
		④森林に関する意識啓発をします
	2 農地の保全と適正管理	①農地の保全と適正管理を促進します
		②環境に配慮した有機農業等を推進します
	3 河川の保全と水循環の確保	①環境や人に配慮した河川を整備・管理します
		②河川の美化と有効利用を進めます
		③流域の視点で水循環を確保します
	4 生物の保護・管理	①動植物の調査・保全をします
		②外来種や野生鳥獣への対策をします
2 きれいな水と空気を守るまち		③動物愛護を推進します
		④生物多様性に配慮した生活・事業活動を行います
		⑤保護地域等を保全します
	5 人と自然とのふれあいの促進	①エコツーリズム・グリーンツーリズムを推進します
		②公園の整備・管理と緑化を推進します
3 ごみのない資源の循環するまち	6 環境の監視と公害等の対策	①環境の監視と公害の防止を図ります
		②大気環境を保全します
		③水環境を保全します
	7 ごみの減量と適正処理	①分別の徹底とごみ処理体制の充実を図ります
		②ごみの減量・資源化を推進します
4 脱炭素な暮らしを实践するまち		③プラスチックごみ・食品ロス対策やグリーン購入を推進します
		④ごみに関する啓発を行います
		⑤不法投棄対策や環境美化を推進します
	8 地球温暖化対策の推進	①総合的な地球温暖化対策を進めます
		②各主体による地球温暖化対策を実施します
		③吸収源として森林の管理や緑化を推進します
		④気候変動に適應した取り組みを推進します
	9 エネルギーの有効利用	①省エネルギーを推進します
5 環境について学び、行動するまち		②交通の脱炭素化を推進します
		③再生可能エネルギーの普及拡大をします
	10 環境教育・環境保全活動の推進	①環境教育を推進します
		②環境リーダーを育成します
		③環境保全活動を推進します
		④環境情報の収集・発信をします



数値目標

環境指標 【くらし環境課】	現状値 (2022 年度)	中間目標値 (2028 年度)	目標値 (2033 年度)
温室効果ガス排出量 【町域からの二酸化炭素排出量（環境省が毎年公表する川根本町の二酸化炭素排出量を使用）】	36.4 千 t-CO ₂ (2020 年度)	29.8 千 t-CO ₂ (2026 年度)	24.2 千 t-CO ₂ (2031 年度)

町の取り組み

①総合的な地球温暖化対策を進めます

- 「川根本町地球温暖化対策実行計画（区域施策編、事務事業編）」に基づき、町内及び町の事務事業における地球温暖化対策の取り組みを推進します。
- エコアクション 21 による環境マネジメントシステムの運用を図り、町施設でのエネルギー使用の削減を図ります。
- 地域の事業所に対して、ISO14001 やエコアクション 21 などの環境マネジメントシステムの取得を促進します。
- 町有地において、自然共生サイトと脱炭素先行地域を関連づけたモデル事業を検討します。
- オゾン層の破壊による影響などについて啓発し、その対策を町民・事業者へ普及します。

町

くらし環境課

②各主体による地球温暖化対策を実施します

- 広報やホームページ、各種イベントを活用し、地球温暖化に配慮した生活のあり方や取り組み（地球温暖化対策アプリ「クルボ」「デコ活」「ゼロカーボンアクション 30」など）についての啓発活動を行います。
- 地球温暖化対策活動推進員の育成のための研修機会を充実し、地球温暖化防止に取り組む人材の養成を図ります。
- 地球温暖化対策活動推進員を中心とした住民の自主的な活動を促進します。

町

くらし環境課

③吸収源として森林の管理や緑化を推進します

- 森林環境譲与税を活用しながら除間伐や地元産材木の活用など木材資源の有効活用を図り、森林の二酸化炭素固定・吸収能力を拡大して地球温暖化防止に貢献します。
- J-クレジット制度を活用した森林吸収量のクレジット化について検討します。

町

くらし環境課
産業振興課

産業振興課

④気候変動に適応した取り組みを推進します

- 「川根本町気候変動適応計画」に基づく適応策を推進するとともに、具体的な適応策について啓発します。
- 農作物について高温耐性品種の普及を図るとともに、お茶については春季の遅霜対策として防霜技術の普及や、夏季の異常高温、干ばつ対策としてかん水技術の普及を行います。
- 病害虫の発生を予察し、これに基づく情報を正確かつ迅速に提供します。
- 農地や農業用施設の湛水被害の解消や、自然的、社会的状況の変化などによって機能が低下した農業用排水施設などの整備に取り組みます。

町

くらし環境課

産業振興課

○ 地域水道ビジョンや簡易水道基本計画に基づき、老朽化した水道施設の更新や改良を行い、良質な水道水を安定供給します。	くらし環境課
○ 水資源の大切さについて理解を深めてもらうため、町民に対する各種啓発活動や広報活動を実施します。	
○ 町内の種の分布・個体群の変化を把握するため、動植物の現地モニタリング調査を実施します。	
○ 「川根本町国土強靱化地域計画」に基づく自然災害対策を総合的に推進します。	総務課
○ 広報紙などを活用した啓発、高温注意情報を基にした同報無線等による広報、各種イベント・講習会での啓発など、熱中症予防に資する情報提供を行います。	健康福祉課
○ 災害時には早急に被害状況を把握し、道路啓開や応急復旧等により、人命救助や緊急物資輸送を支援します。	総務課、建設課 健康福祉課
○ 防災備蓄品の準備、太陽光発電等による自家発電の推進など、家庭・事業所における停電対策等の意識の向上を図ります。	くらし環境課 総務課
○ 緑地の確保、緑のカーテンの普及などにより、暑熱対策を推進します。	くらし環境課 産業振興課

町民・事業者の取り組み

	町民	事業者
① ○ 「川根本町地球温暖化対策実行計画」に関心を持ちます。	★	★
○ ISO14001 やエコアクション 21 の認証取得に努めます。		★
○ エアコン、冷蔵庫など新しい製品に買い換えるときには、古い製品をきちんと処理します。	★	★
② ○ 「クルポ」「デコ活」「ゼロカーボンアクション 30」などを参考に、身近に取り組める行動を実践します。	★	★
○ 地球温暖化対策活動推進員として、温室効果ガス削減のための活動を推進します。	★	
③ ○ 二酸化炭素の吸収に貢献する緑のカーテンづくりを行います。	★	★
○ 森林管理のためのボランティア活動に参加・協力します。	★	★
○ 森林の保全・適正管理に努めます。		★
④ ○ ハザードマップの確認、食料や飲料水の備蓄、非常持出品の準備など、日頃から防災意識を高めます。	★	★
○ 気候変動による影響を想定した事業継続計画（BCP）を策定します。		★
○ 室温の適正管理、水分補給、帽子着用、猛暑時の屋外活動自粛など、熱中症対策を徹底します。	★	★
○ 高温に強い品種の選択や、栽培作物の転換、栽培適地の移動など、気候変動による影響の少ない農業を行います。		★

3 エコアクション 21 に基づく町役場の取り組み

町の事務及び事業に伴う環境負荷について把握し、行政として自ら環境負荷を低減させるため、川根本町地球温暖化対策実行計画を策定（H29.1）しています。

（１）川根本町地球温暖化対策実行計画に基づく令和５年度の目標〔中長期目標〕

○二酸化炭素総排出量の削減目標

二酸化炭素排出係数 0.497

(kg-CO2)

(基準値) H27 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	(目標年度) R5 年度	削減率 (%)	削減量
1,877,256	1,689,530	1,595,667	1,501,804	1,407,942	25	469,314
	10%削減	15%削減	20%削減	25%削減		

○ゴミ排出量の削減目標

(kg)

(基準値) H27 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	(目標年度) R5 年度	削減率 (%)	削減量
10,338	10,049	9,976	9,903	9,831	4.9	507
	2.8%削減	3.5%削減	4.2%削減	4.9%削減		

○紙使用量の削減目標

(枚)

(基準値) H27 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	(目標年度) R5 年度	削減率 (%)	削減量
1,651,350	1,403,648	1,337,593	1,271,539	1,205,485	27	445,865
	15%削減	19%削減	23%削減	27%削減		

○水使用量の削減目標

(m)

(基準値) H27 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	(目標年度) R5 年度	削減率 (%)	削減量
37,810	37,205	37,053	36,902	36,751	2.8	1,059
	1.6%削減	2.0%削減	2.4%削減	2.8%削減		

○グリーン購入率目標

(%)

(基準値) H27 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	(目標年度) R5 年度	購入率 (%)	向上率
72	79	86	93	100	100	28
	7%向上	14%向上	21%向上	28%向上		

（２）令和５年度全体目標〔短期目標〕

◇ CO2 排出量を平成 27 年度対比 25%削減する。その他の項目も令和 5 年度の目標達成に向け、段階的な削減又は向上に取り組む。

◇ 電力使用量については、7～9月を重点強化期間として節電に取り組む。

(3) 各課（局・施設）の取組目標

○令和5年度 各課の取組目標

課 名	取 組 目 標
総務課	職員の庁内業務DX推進を図り、ペーパーレス化等により、紙使用量を平成27年度基準値に対し、20%削減することに繋げる
経営戦略課	担当業務に係る業務参考資料（行政資料）の作成・更新を行うことで、年度末の異動に伴う引き継ぎ作業や担当職員不在時の問い合わせ対応に係る負担を軽減し、業務時間短縮や業務効率化を図る
デジタル推進課	・告知端末機の利活用による紙資源の使用削減。告知端末機お知らせ配信：年間250件（月平均20件） ・Web会議の呼びかけによる、使用エネルギーの削減と業務の効率化：主催250回/年間（月平均20回）
産業振興課	森林環境教育の推進
農林業センター	町民の手本となる圃場管理
茶茗館	茶茗館環境エコの実践、啓発
建設課	CO2排出量の削減
高齢者福祉課	エコ意識の向上を図り行動へと繋げる
健康福祉課	健康活動勧奨
桜保育園	食育活動の充実 環境教育の推進
三ツ星保育園	食育活動の充実と環境教育の推進に取り組む
くらし環境課	クリーンエネルギー機器導入事業及びポータブル蓄電池導入事業を推進し、再生可能エネルギーの普及及び省エネルギーを推進する
税務住民課	電子納税（eL-QR）の推進 【年間目標】電子納税率30%
会計課	・電力使用の削減 ・CO2排出量の削減
議会事務局	議員への配付資料のデータ化促進（紙使用量削減）

観光交流課	エコツーリズムの普及啓発
奥大井音戯の郷	入館者に影響のない範囲で館内の節電を徹底し、電気使用量を減少させ、入館者を増加させる
教育総務課	川根留学生及び川根高校に入学を希望している保護者と生徒に対し、高校の魅力と併せ本町の豊かな地域資源をPRする
学校給食共同調理場	給食配送車 エコドライブ・アップ大作戦
社会教育課	環境教育の推進
文化会館	①施設利用者数の維持・増加を図りつつ、前年度比として電気使用量を削減する ②町民の環境意識の向上を図る
B & G海洋センター	海洋センター施設利用者や自主事業への参加者を対前年度比5%増を目標とし、1人当たりの環境負荷を減らす

(4) 取組目標に対する実績

短期目標

令和５年度の実績結果は以下のとおりです。

〇二酸化炭素総排出量

基準年（H27） 《実績値》	目標年（R5） 《目標値》	R5目標 削減率	R5実績 《実績値》	増減率	
1,877,256 kg-CO ₂	1,407,942 kg-CO ₂	△25%	1,614,527 kg-CO ₂	対基準年	△14.0%
				対目標年	14.7%

判定	×
----	---

〇ゴミ排出量

基準年（H27） 《実績値》	目標年（R5） 《目標値》	R5目標 削減率	R5実績 《実績値》	増減率	
10,338kg	9,831kg	△4.9%	8943kg	対基準年	△13.5%
				対目標年	△9.0%

判定	○
----	---

〇紙使用量

基準年（H27） 《実績値》	目標年（R5） 《目標値》	R5目標 削減率	R5実績 《実績値》	増減率	
1,651,350枚	1,205,485枚	△27%	1,410,700枚	対基準年	△14.6%
				対目標年	17.0%

判定	×
----	---

〇水使用量

基準年（H27） 《実績値》	目標年（R5） 《目標値》	R5目標 削減率	R5実績 《実績値》	増減率	
37,810m ³	36,751	2.80%	44,433m ³	対基準年	17.5%
				対目標年	20.9%

判定	×
----	---

〇グリーン購入率

基準年（H27） 《実績値》	目標年（R5） 《目標値》	R5目標 削減率	R5実績 《実績値》	増減率	
72%	100%	28%	28.2%	対基準年	△43.8%
				対目標年	△71.8%

判定	×
----	---

※判定は目標年（R5）目標値に対するR5実績

〇二酸化炭素排出量の内訳

令和5年度 エコアクション21取組実績 【第4四半期まで】

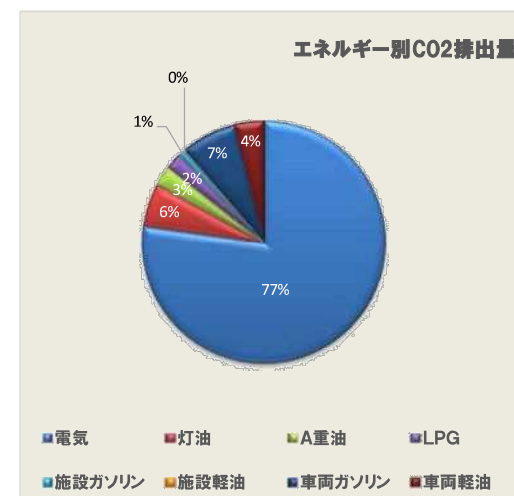
1. CO ₂ 排出量	目 標	平成27年度比 25%削減	実績（対基準年）	14.0%削減
			実績（対前年）	4.6%削減

【排出係数】
 ・電 気:0.497
 （H27年度中部電力排出係数）
 ・灯 油:2.49 ・A重油:2.71
 ・LPG:3.00 ・ガソリン:2.32
 ・軽 油:2.58

（1）エネルギー別

単位：kg-CO₂

	電気	灯油	A重油	L P G	施設ガソリン	施設軽油	車両ガソリン	車両軽油	合計
R 5	1,246,605 77.2%	91,000 5.6%	44,363 2.7%	35,364 2.2%	12,081 0.7%	4,150 0.3%	118,961 7.4%	62,005 3.8%	1,614,527 100.0%
R 4	1,331,174 78.6%	91,184 5.4%	39,160 2.3%	35,268 2.1%	357 0.0%	3,340 0.2%	118,087 7.0%	74,337 4.4%	1,692,907 100.0%
H 2 7 （基準年度）	1,340,923 71.4%	115,165 6.1%	58,536 3.1%	97,378 5.2%	709 0.0%	3,612 0.2%	175,343 9.3%	85,591 4.6%	1,877,257 100.0%
増減 (H27-R5)	△94,318 △7.0%	△24,165 △21.0%	△14,173 △24.2%	△62,014 △63.7%	11,372 1,604.01%	538 14.89%	△56,382 △32.2%	△23,586 △27.6%	△262,730 △14.0%
増減 (R4-R5)	△84,569 △6.4%	△184 △0.2%	5,203 13.29%	96 0.27%	11,724 3,284.15%	810 24.24%	874 0.74%	△12,332 △16.6%	△78,380 △4.6%



（2）各課・局別

単位：kg-CO₂

	総務課	経営戦略課	デジタル推進課	産業振興課	建設課	高齢者福祉課	健康福祉課	税務住民課	支所管理局	観光交流課	教育総務課	社会教育課	くらし環境課	合計
R 5	300,811 18.6%	1,375 0.1%	62,411 3.9%	62,727 3.9%	18,337 1.1%	86,935 5.4%	137,089 8.5%	939 0.1%	0 0.0%	272,463 16.9%	278,774 17.3%	117,536 7.3%	275,130 17.0%	1,614,527 100%
R 4	153,664 9.1%	1,605 0.1%	61,303 3.6%	60,236 3.6%	16,240 1.0%	107,149 6.3%	136,324 8.1%	1,098 0.1%	135,568 8.0%	299,550 17.7%	340,857 20.1%	121,709 7.2%	257,603 15.2%	1,692,906 100%
H 2 7 （基準年度）	169,347 9.0%	4,533 0.2%	29,043 1.5%	74,970 4.0%	24,117 1.3%	177,274 9.4%	176,497 9.4%	1,401 0.1%	174,269 9.3%	314,446 16.8%	325,392 17.3%	143,909 7.7%	262,059 14.0%	1,877,257 100%
増減 (H27-R5)	131,464 77.63%	△3,158 △69.7%	33,368 114.89%	△12,243 △16.3%	△5,780 △24.0%	△90,339 △51.0%	△39,408 △22.3%	△462 △33.0%	△174,269 △100.0%	△41,983 △13.4%	△46,618 △14%	△26,373 △18.3%	13,071 4.99%	△262,732 △14.0%
増減 (R4-R5)	147,147 95.76%	△230 △14.3%	1,108 1.81%	2,491 4.13%	2,097 12.91%	△20,214 △18.9%	765 0.56%	△159 △14.5%	△135,568 △100.0%	△27,087 △9.0%	△62,083 △18.2%	△4,173 △3.4%	17,527 6.80%	△78,381 △4.6%

※島田消防署川根北出張所（総務課）、自然村休養村管理センター（支所管理局）、温泉施設・宿泊施設・キャンプ場（観光商工課）は電気使用量のみ対象

○電力使用量（第4四半期まで）

実績（対基準年）	7.0%削減
実績（対前年）	6.4%削減

単位：kwh

	総務課	デジタル推進課	産業振興課	建設課	高齢者福祉課	健康福祉課	支所管理局	観光交流課	教育総務課	社会教育課	くらし環境課	合計
R 5	416,438	125,575	88,766	25,493	55,121	171,492	0	522,133	470,573	208,615	424,053	2,508,259
R 4	286,795	123,346	92,058	25,065	70,514	174,825	98,963	577,015	599,373	209,793	420,672	2,678,419
H 2 7	287,811	58,437	112,078	36,418	86,270	190,657	128,595	549,504	607,353	245,611	395,301	2,698,035
増 減 (H27-R5)	128,627	67,138	△23,312	△10,925	△31,149	△19,165	△128,595	△27,371	△136,780	△36,996	28,752	△189,776
	44.69%	114.9%	△20.8%	△30.0%	△36.1%	△10.1%	△100.0%	△5%	△23%	△15.1%	7.27%	△7.0%
増 減 (R4/R5)	129,643	2,229	△3,292	428	△15,393	△3,333	△98,963	△54,882	△128,800	△1,178	3,381	△170,160
	45.2%	1.8%	△3.6%	1.71%	△21.8%	△2%	△100.0%	△9.5%	△21.5%	△0.6%	0.80%	△6%

令和5年度のCO2排出量については、平成27年度対比25%の削減を目標として取り組んだが、14.0%削減という結果になった。目標達成することは出来なかったが、昨年と比較しても4.6%削減しており、取り組みの進捗を評価すべきではないかと考える。

電気使用量については、年間で対基準年7.0%削減、前年度対比は6.4%削減となった。昼休みに電気を消すなど考えられる節電は徹底されているが、今後も引き続き節電努力をしていく必要がある。

							実績（対基準年）	13.5%削減					
2. ゴミ排出量							実績（対前年）	14.3%削減		単位：kg			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R5	928.6	626.7	781.3	765.9	733.7	841.1	751.1	677.1	799.2	621.6	658.6	758.5	8,943.4
R4	899.1	732.6	784.4	780.7	839.9	902.8	1,191.4	836.2	1,032.3	695.6	832.5	910.2	10,437.7
H27	1,036.0	758.5	888.0	895.4	780.7	777.0	821.4	865.8	895.4	725.2	847.3	1,047.1	10,337.8
比較増減 (R5/H27)	△107	△132	△107	△130	△47	64	△70	△189	△96	△104	△189	△289	△1,394.4
	△10.4%	△17.4%	△12.0%	△14.5%	△6.0%	8.25%	△8.6%	△21.8%	△10.7%	△14.3%	△22.3%	△27.6%	△13%
比較増減 (R5/R4)	30	△106	△3	△15	△106	△62	△440	△159	△233	△74	△174	△152	△1,494.3
	3.28%	△14.5%	△0.4%	△1.9%	△12.6%	△6.8%	△37.0%	△19.0%	△22.6%	△10.6%	△20.9%	△16.7%	△14.3%

ゴミ使用量については、平成27年度対比4.9%の削減目標に対し、13.5%の削減となった。特に保育園2園のゴミ排出管理は積極的であり、生ゴミの水切り、リサイクルなど複合的に取り組んでくれている。庁舎においても工夫を積み重ねていけば更に大きな効果が期待できる。

							実績（対基準年）	14.6%削減					
3. 紙使用量							実績（対前年）	11.5%削減		単位：枚			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R5	157,250	96,950	85,900	112,000	124,400	100,450	165,400	73,000	109,450	100,950	148,500	136,450	1,410,700
R4	197,450	149,000	136,000	151,850	104,950	99,450	143,450	117,000	140,450	121,500	117,900	114,950	1,593,950
H27	132,000	141,500	165,000	111,000	126,350	154,500	121,000	104,000	138,500	144,500	132,000	181,000	1,651,350
比較増減 (R5/H27)	25,250	△44,550	△79,100	1,000	△1,950	△54,050	44,400	△31,000	△29,050	△43,550	16,500	△44,550	△240,650
	19.1%	△31%	△47.9%	0.90%	△1.5%	△35.0%	36.69%	△29.8%	△21.0%	△30.1%	12.50%	△24.6%	△15%
比較増減 (R5/R4)	△40,200	△52,050	△50,100	△39,850	19,450	1,000	21,950	△44,000	△31,000	△20,550	30,600	21,500	△183,250
	△20%	△35%	△36.8%	△26.2%	18.53%	1.01%	15.30%	△37.6%	△22.1%	△16.9%	25.95%	18.70%	△11%

紙使用量については、平成27年度対比27%削減目標に対し、14.6%削減となった。各課で再利用、ペーパーレス化を推進している中でこのような数字となった。

年度当初の書面会議等による増加など、増加した要因は他にもあると思われる。今年度も引き続きペーパーレス化の推進を図るよう職員一人一人が意識して業務に取り組むようにしていきたい。

4. 水使用量				実績（対基準年）	17.5%増加	単位：m ³
目標 平成27年度比2.8%削減				実績（対前年）	22.7%削減	
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計	
R5	5,240	18,973	8,567	11,653	44,433	
R4	4,954	28,648	7,601	16,312	57,515	
H27	7,022	15,242	5,668	9,878	37,810	
比較増減 (R5/H27)	△1,782	3,731	2,899	1,775	6,623	
	△25.4%	24.48%	51.15%	17.97%	17.52%	
比較増減 (R5/R4)	286	△9,675	966	△4,659	△13,082	
	5.77%	△33.8%	12.71%	△28.6%	△22.7%	

※島田消防署川根北出張所（総務課）、自然休養村管理センター（支所管理局）、温泉施設・宿泊施設・キャンプ場（観光商工課）、お試し住宅（企画課）、川根高校男子寮よすが苑（教育総務課）、伝統文化伝承館（社会教育課）、クリーンビュー川根本町（くらし環境課）、若者交流センター奥流（教育総務課）の使用量は除いた数値

水使用量については、平成27年度対比2.8%の削減目標に対し、17.5%増加という結果になってしまった。第1四半期だけ25%の削減で、後3四半期は増加の一途を辿っている。業務上水の使用を要するところはあるので一概には言えないが、無駄な水利用は多くないと思っている。

5. グリーン購入		目標 平成27年度比28%向上	実績	71.8%低下
	物品購入 全体	うち グリーン購入物品	グリーン購入率	
R5	71 品	20 品	28.2%	
R4	59 品	39 品	66.0%	
H27	83 品	60 品	72.0%	

共通消耗品については総務課にて一括購入するため、グリーン購入を意識しているが、目標年実績71.8%低下で目標値に届かなかった。グリーン購入のみならず、サステナブルという概念も入れつつ、資源リサイクルに寄与できる自治体を目指すべきだろうと思う。

環境経営計画と取組結果、評価及び次年度の取り組み内容

1 全庁・全施設 川根本町地球温暖化対策実行計画に定める取組項目

川根本町地球温暖化対策実行計画に定める取組項目

実 施 項 目	R5評価	R6計画
◎電気使用量の削減	○	継続
事務室内の照明は、自然光で必要照度が得られる場合には可能な限り消灯する。	△	掲示・周知
トイレや会議室、更衣室等の使用頻度が低い場所の照明は、普段は消灯し必要な場合のみ点灯する。	○	継続
定時退庁日の取組を徹底する。	○	継続
照明機器は、可能な限りLED等の省エネルギー機器へ転換する。	○	継続
ノートパソコンは、離席時や着席時でも長時間使用しない場合はふたを閉じる。1時間以上離席する場合は電源を切る。	△	相互監視
デスクトップパソコンは、スリープモードの開始時間を5分に設定する。1時間以上離席する場合は電源を切る。	○	継続
コピー機及びプリンターは、平日は省エネモードにし、夜間・休日は主電源を切る。	△	点検強化
冷暖房の設定温度は、冷房28℃、暖房20℃とする。扇風機を併用して効率的な空調管理を行う。	○	継続
18時以降は空調は使用しない。(扇風機は使用可)	○	継続
使用していない部屋の空調は停止する。	○	継続
クールビズ、ウォームビズを実施し、冷暖房の使用を抑制する。	○	継続
エレベーターの使用を控え、階段使用を励行する。	○	継続
テレビ、電気ポット、電子レンジ等の電化製品の使用は必要最低限とする。	○	継続
◎施設における燃料使用量の削減	○	継続
ボイラー機器の定期点検、適正管理を行い、燃料の損失を防ぐとともに、不具合を早期発見し修繕を行う。	○	継続
ボイラー機器等は、可能な限り省エネルギー機器へ転換する。	○	継続
◎車両における燃料使用量の削減	○	継続
車両購入の際は、環境負荷低減に配慮した製品を選定する。	○	継続
公共交通機関の利用、公用車の相乗り等により、公用車の使用削減に努める。	○	継続
アイドリングストップや低燃費運転を励行する。	○	継続
定期的に車両の整備・点検を実施し、燃費を向上させる。	○	継続
◎廃棄物の削減、リサイクルの推進	○	継続
使い捨て製品の使用や購入を抑制する。	○	継続
リターナブルボトルの製品を優先的に使用・購入する。	○	継続
丁寧な使用、修理等を行い、備品・製品の長期使用に努める。	○	継続
分別回収ボックスの設置や掲示物の掲示により、来庁者や施設利用者に対する分別を呼びかける。	○	継続
ミスプリ用紙、古封筒、付箋等、紙製品のリサイクルを徹底する。	○	継続
シュレッダーの使用は必要最小限とし、機密を保持した上でリサイクルを行う。	○	継続
両面印刷・両面コピーを徹底する。	○	継続
庁内資料は再利用紙を使用する。	○	継続
グループウェアを活用し、紙使用量を抑制する。	○	継続
資料の簡素化、作成部数の見直しにより、紙使用量を抑制する。	○	継続
コピー、印刷時には、サイズ・色・方向等を確認し、ミスプリントを防ぐ。	○	継続
保存年限を超過した文書は定期的かつ適正に処分し、リサイクルを推進する。	○	継続
廃食油を回収し、ゴミ収集車の燃料(BDF)としてリサイクルする。	○	継続
廃棄物管理票(マニフェスト)に基づき、適正な廃棄物の処分を行う。	○	継続
◎水道使用量の削減と健全な循環形成	○	継続
手洗い、洗物等、日常の節水に心がける。	○	継続
トイレ内に掲示物を掲示し、来庁者・施設利用者へ節水の協力を呼びかける。	○	継続
バルブを調整し、水量・水圧を適正に保つ。	○	継続
水道使用量の定期点検を実施し、漏水等の不具合を早期発見し修繕を行う。	○	継続
雨水利用設備等を設置し、雨水利用を促進する。	×	試行
合併処理浄化槽への転換を進め、適正な排水処理を行う。	○	継続
◎事務用品購入における環境配慮	○	継続
エコマーク商品を積極的に購入する。	△	強化
消耗品や備品、建築物の新築・増改築に対し、積極的に木製品を購入・使用する。	○	継続
FSC森林認証紙、ふじのくに森の町内会間伐に寄与する紙を積極的に採用する。	○	継続
◎フロン排出抑制法	○	継続
エアコン、冷凍冷蔵庫の定期点検を実施する。	○	継続

【評価】○:実施(評価)できている △:一部改善の余地あり ×:実施(評価)できていない

2 各課（局・施設）

令和5年度 各課（局・施設）の取組実績及び評価

課（局・施設）名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
総務課	職員の庁内業務DX推進を図り、ペーパーレス化等により、紙使用量を平成27年度基準値に対し、20%削減することに繋げる。	総務課のみではなく、紙使用量の削減を全職員に注意喚起し、職員個々に削減に努める。	基準年比で71.9%と28.1%の減少となった。課長会議等での注意喚起や、ペーパーレス化、DXの推進による効果で適正化が図られたと考える。	基準年比79.0%と21.0%の減少という結果になった。課長会議等での注意喚起やペーパーレス化、DXの推進により適正化が図られ、通年で使用量は減少となった。次年度についても、現在進めている施策の継続、DXの推進等による更なる使用量及び使用料を削減することを目標とする。
経営戦略課	担当業務に係る業務参考資料（行政資料）の作成・更新を行うことで、年度末の移動に伴う引き継ぎ作業や担当職員不在時の問い合わせ対応に係る負担を軽減し、業務時間短縮や業務効率化を図る。	6月末時点で新規2・既存27の全28項目の行政資料を作成・更新し、課内回覧して記載内容について相互確認する。また、担当者不在時に問合せや来客説明で資料を使用し、記載内容に改善が必要と感じた時は、随時、担当職員にフィードバックする。	作成数：29項目（全29項目中） 作成率：100%	本年度も昨年度以前からの取組の継続としたが、課内にて資料の作成や活用が有効に行われたと感じる。業務が多岐に渡る中で、今回のような取組は業務の円滑化に役立つものと思われる。本年度はペーパーレス化の観点から、ファイルでの綴りではなくデータでの共有を実施したが特段支障はなかったため、データでの更新を継続していきたい。
デジタル推進課	- 告知端末機の利活用による紙資源の使用削減。 - 告知端末機お知らせ配信：年間120件（月平均10件） - Web会議の呼びかけによる、使用エネルギーの削減と業務の効率化：主催250回／年間（月平均20回）	- 町民へのお知らせ等は告知端末機お知らせ配信や同設備機能、役場ポータルに掲載し、紙資源の使用は必要最低限とする。 - Web会議について各課の使用推進を図ることで出張費やガソリンコストなどの使用エネルギー削減を目指す。（課長会議等で積極的な利用推進）	- 告知端末機お知らせ配信（114回） - 会議実績 主催（198回） 参加（751回） - Zoom研修	毎月のWeb会議の参加状況の周知を行ったため主催、参加共に利用回数が増加傾向にある。利用方法が職員に浸透しつつあることや、情報基盤が進んだことが要因であると思われる。引き続きWeb会議の利用を呼び掛ける。

令和5年度 各課(局・施設)の取組実績及び評価

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
産業振興課	森林環境教育の推進	町民の自然環境意識の向上を目的に、森林環境教育を推進する。	○9月30日 静大演習林内で山岳防災、広葉樹の生態等について、森林環境ツアーを開催。参加者12名 ○11月12日 大札山をフィールドに、樹名板の制作・設置及びトレッキングツアーを開催。参加者20名	森林環境教育の開催に向けて、関係機関である静岡大学との日程調整を行った。開催に向け準備を進めている。
農林業センター	町民の手本となる圃場管理	防除基準の遵守と適期防除の推進	防除作業 年間7回	・年間を通じてほぼ計画通りの防除作業を行うことができた。 ・作業に当たり、職員間で手順や注意点を確認し、適正な着衣による作業ができた。 ・当施設の業務は主に気候に左右されるが、特に夏の炎天下での作業は、各自が体調管理に留意しながら行いたい。
茶茗館	茶茗館環境エコの実践、啓発	・呈茶で発生する茶殻の再利用 ・光熱費の有効活用	来場者数は前年比115%	・茶殻の再利用については、役場職員の協力により年間を通して目標を達成できた。次年度も続けていきたい。 ・来館者数はコロナ前の数値に戻ってきており、大幅な増員は期待できない。
建設課	CO2排出量の削減	両面印刷、紙の再利用を行い、紙を節約する。	①用紙の給紙 22,500枚 昨年度給紙 38,500枚 ②再利用枚数 3,050枚 昨年度再利用 2,200枚	今年度の実績は、給紙枚数:22,500枚、再利用枚数:3,050枚であった。令和4年度の実績と比較すると、給紙枚数:38,500枚、再利用枚数:2,200枚であったため、前年度比では、給紙枚数:16,000枚の減、再利用枚数:850枚の増であった。今年度は、後期の給紙枚数が少なかったが、記入漏れの可能性もあることからより一層の意識共有を図りたい。
高齢者福祉課	エコ意識の向上を図り行動と繋げる	・関係する施設を含め、電気使用量及び燃料費の削減に努める。 ・配食の弁当箱にエコ容器を使用することで、廃棄時のCO2低減を図るとともに、エコ意識の向上に繋げていく。	物価高の影響や気温の関係で電気・ガス等の使用量、使用料ともに増加傾向の項目もあるが、減少している項目もあり、節約の意識はできていると考える。今後もしできる範囲での節約に努めていきたい。	燃料価格高騰や温暖化等の影響により、使用量・使用料の増加がみられた項目もあったが、減少している項目もあり、課内や施設において節約の意識はできていたと考える。 また、活動計画でも示した、配食弁当箱にエコ容器を使用することで廃棄時のCO2削減にも繋がったと考える。 今後も課内、施設に対しエコアクションの取り組みの徹底を周知していききたい。

令和5年度 各課(局・施設)の取組実績及び評価

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
健康福祉課	健康活動勸奨	町が行う健康診査と各種検診の受診 勸奨を行い、元気に暮らせるまちづくり を目指す	健診受診者数／健診申込数 * 100 592人／514人 * 100＝115.2% (目標値: R4実績98.6%)	・健診ガイドをはじめ紙は多く使用するが、ガイドを見ながらの問い合わせが多いことや健(検)診はHP媒体等に不慣れな高齢者も受診されることから、紙媒体での案内はまだ減らすことができない。 ・HPや町広報誌を使用した案内も同時並行で行っている。
桜保育園	・食育活動の充実 ・環境教育の推進	・園児と栽培やクッキング、土壌作りに取り組む ・園から排出するごみの減量	ゴミ袋 221個(817.7kg) リサイクル用雑紙量 229.0kg 乾燥生ゴミ 39.1kg	今年度はゴミ袋の目標数を設定したがオーバーした。保育で手作りしたものや地域でもらったもの等の片付けもあり増えたと考えられる。来年度も保育環境の見直しを考えており、ゴミが多くなることが予想されるため、今年度並みのゴミ袋数を目標にしていきたい。給食では、調理員がゴミ削減を意識してくれたため、例年並みの抑えることができた。乾燥生ゴミの量は減っているため、できる物はなるべく乾燥させて次の資源につながるようお願いしていく。リサイクル(牛乳パックや資源紙のリサイクル・乾燥ゴミや落ち葉での土作り)活動と一緒にいたり、見せながら進めていきたい。
三ツ星保育園	食育活動の充実と環境教育の推進に取り組む	・園児と共に栽培、クッキング、土壌作りを行い、食育を推進する。 ・環境に優しい生活を送るために、ゴミ分別の必要性を伝えていく	ゴミ袋 296個(約1095.2kg) リサイクル用雑紙量 343.6kg 乾燥生ゴミ 65.3kg	園庭の落ち葉で堆肥作りを行うことで畑は良い土壌となり、いろいろな野菜を作ることができた。子ども達にも落ち葉が良い土になることが伝えられ、ゴミではなく循環する資源であることを、これからも子ども達にわかりやすく伝えていきたい。また、ゴミの量が多かったため、リサイクルできる物の分別を丁寧にやっていくようにしたい。水分量の多い食品ゴミなどは乾燥させてからゴミとして出しているが、草やその他水分の多いゴミについてもよく乾燥させて、ゴミの焼却施設での燃料節減につながるようにしていきたい。

令和5年度 各課(局・施設)の取組実績及び評価

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
くらし環境課	・クリーンエネルギー機器導入事業及びポータブル蓄電池導入事業を推進し、再生可能エネルギーの普及及び省エネルギーを推進する。	・クリーンエネルギー導入促進事業、ポータブル蓄電池導入事業それぞれ予算執行率90%を目指す。	・クリーンエネルギー導入事業55件 →予算執行率97.7% ・ポータブル蓄電池導入事業10件 →予算執行率91.6%	クリーンエネルギー機器導入促進事業、ポータブル蓄電池導入事業ともに広報誌掲載やHP掲載を通じ申込も堅調に推移し、予算執行率目標を達成することができた。 来年度も引き続き継続したい。
税務住民課	電子納税(eL-QR)の推進 【年間目標】電子納税率30%	電子納税についてのPRと対象税目増加の検討を行い、納税者の利便性工場と業務の効率化を図る。	電子納税率0.0074% (23/3082件)	今年度から新たな目標を設定して取り組んできた。 本町では電子納税(eL-QR)の開設年度であり、ホームページや広報にて周知したが、各月・全体ともに目標を大きく下回る結果となったが、納税件数の約7割を口座振替が占める本町においては、電子納税を選択する納税者は残りの3割と考えるのが妥当である中で、目標値も的整数値ではなかったことも是正点である。 令和6年度には3税目が新たに電子納税の対象となることから、今後の推進方法等についても再検討し、行政手続きのDX化をより一層推進していきたい。
会計課	・電力使用の削減 ・CO2排出量の削減	・伝票処理業務における電力使用量等の削減 ・例月出納検査受検業務における電力使用量等の削減	前年度対比、3,735枚削減	この1年間は、紙の使用量削減のために力を入れて全職員に周知することができたと思われる。引き続き継続したい。
議会事務局	議員への配付資料のデータ化促進	・紙で配付していた資料のデータ化 ・会議におけるモニター活用の徹底 ・タブレット活用の試行 (活用により使用しなかった紙枚数を調査)	【タブレット活用】 ・6月会議(議会報告会打合せ) ・3月特別予算委員会 【削減した紙の枚数】 ・A4用紙 2,119枚	今年度はスポット的なタブレット活用に留まってしまったが、モニターの活用やタブレットの活用により、事務の効率化による生産性の向上にある。 令和6年度においては、議会デジタル化に向けて議員の意識醸成を図り、予算措置ができるよう取り組んでいきたい。

令和5年度 各課(局・施設)の取組実績及び評価

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
観光交流課	エコツーリズムの普及啓発	令和6年度にエコパークが登録10周年を迎えるため、町内外へのエコパークの普及啓発、また町民へのエコツーリズムの認識向上のための普及啓発として環境保護と持続可能性を考慮するプログラムの構築を行う。	普及啓発活動(年間) ガイド養成講座の開催 町内小・中・高での普及啓発出前講座の開催	令和5年度は、小・中・高向けの普及啓発事業を例年とほぼ同時期に各講座実施、ガイド養成講座やフィールドワークも例年とあまり変化のない形で開催となった。特にガイド養成講座は新規ガイドの増加につながっていない課題がみられた。 令和6年度はエコパークが登録10周年を迎えるにあたり例年開催しているガイド養成講座やフィールドワークの他、登録記念に絡めた事業の実施を予定しており、エコパークの意味や町の資源を知ることのできるイベントを実施することとなっている。これに伴い、例年とは違う内容の講座でさらにエコツーリズムやエコパークの認識度向上を図るよう検討していきたい。
奥大井音戯の郷	入館者に影響のない範囲で館内の節電を徹底し、電気使用量を減少させ、入館者を増加させる。	- 空調の温度設定を冬場20度、夏場28度とし、外気温によってはこまめに今度設定を行う。 - 館内で未使用の場所の消灯や未使用の電気製品の主電源を切る。	電気使用量 R5年度76,592kwh(R4年度91,467kwh) 入館者数 R5年度6,274人(R4年度6,971人) 実施内容 バイクイベント、ギターイベント、エアコン、シアター・照明の使用時間の削減	今年度は、電気使用量の多い電気製品やエアコンの稼働時間を昨年度に比べさらに短くすることを心掛けたことで、電気使用量は20%削減することができた。 イベント等実施により、昨年並みの入館者数は確保できたが、増加には至らなかった。 ただ、年間の入館者数に対する電気使用量は減少したことから効果は一定程度あったと考える。 今後の改善の取り組みとしては、夏場は大型扇風機、冬場はファンヒータを使用し、その間はエアコンの利用を抑えるなど対策の効果を検証したい。

令和5年度 各課(局・施設)の取組実績及び評価

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
教育総務課	川根留学生及び川根高校に入学を希望している保護者と生徒に対し、高校の魅力と併せ本町の豊かな地域資源をPRする	本町の豊かな自然環境や森林資源等の情報発信を行う。	・川根留学生に消灯時間等の厳守を呼び掛け ・オンラインによる説明にて、中学生とその保護者に町の豊かな自然を中心に情報発信を行った。 ・1日体験入学のイベント内で、参加した中学生とその保護者に、町の豊かな自然を中心に情報発信を行った。 - 対面全体説明時に、中学生とその保護者に町の豊かな自然を中心に情報発信を行った。 ・地元に住む中・高校生に、地域の人達と共に、豊かな自然環境を守っていくことの重要性も併せて学んだ。	●年間総括 自然環境が良いことが当たり前になってしまい、気づかなくなってしまうためにも、再確認させる場面設定は必要と思う。 そこで今回は、誰かがやってくれるのではなく、自分が気づいてやる考えで行動できるよう、直接対話や、地域の重要な一員であることを感じてもらう内容でPRすることができ、生徒は、少しではあるが、環境を守る意識が高まったと感じた。 ●次年度への是正点 今回のように意識を高めるPRの実施と併せて、実際に生徒が気づき、行動に移してもらえるようなアピール方法も検討したい。
学校給食共同調理場	給食配送車エコドライブ・アップ作戦	町内4校への給食配送は、定められた時間内に安全に配送を行っているが、エコドライブにより一層取り組むことにより、燃費向上を図るとともに、学校再編に向けての対応を検討する。	期間給油量 1,725ℓ 延べ走行距離数 14,842km 期間燃費量 8.6km/ℓ	令和5年度の年間通して平均した燃費量を参考にしながら、令和6年度も新路線での燃費量を把握したエコドライブで安全な配送を心掛ける。

令和5年度 各課(局・施設)の取組実績及び評価

課(局・施設)名	取組目標	活動計画	取組実績	実績評価、次年度への是正点等
社会教育課	環境教育の推進	地域で取り組む生涯学習事業など「環境保護」をテーマとした学習機会の開催	【地域で取り組む生涯学習事業】 各地域で実施中(全事業を終了し、実績報告書が提出された)26地区 【ふるさと発見団】 6/24実施 参加児童数 6人 7/29実施 参加児童数 5人 11/25実施 参加児童 7人 2/25実施 参加児童 7人 【放課後子供教室】 毎週水曜開催(9月から) 延べ476人参加	各地区で取り組む生涯学習事業は28地区中26地区が実施した。次年度は全地区事業実施に向け協議会等で依頼したい。 また、小学生を対象とした「ふるさと発見団」、焼津市小学生との「海の子山の子交流会」については、今年度コロナ感染対策を行い、自然とふれあう事業を実施することができた。 次年度においても環境学習等を取り入れた計画を行ってきたい。
文化会館	①施設利用者数を維持・増加を図りつつ、前年度比として電気使用量を削減する。 ②町民の環境意識の向上を図る。	①文化会館の貸館利用を促進しつつ、照明のこまめな消灯、空調の稼働時間及び温度設定の適正化を心がけ、節電に努める。 ②環境意識の向上に資するイベント等を開催する。	年間電気使用量 104,633kwh 利用者数 11,665人 関連イベント 自然の風景(旅)に関する写真展、南アルプスユネスコエコパーク展、川根本町の自然を紹介する写真展、地元の風景等を題材にした絵手紙展、地元の自然素材を活用した竹細工展、町内の風景等を題材にした彩むすび書の展示会、福祉施設・文化会館の作品展、各地区の環境活動・生涯学習活動等を紹介する展示会	コロナウイルスワクチンの集団接種については、本年度で終了になることから、利用人数は過去の平年並みに近づいていくこととなる。 エネルギー使用量はホールなどの電力消費が主な変動箇所となるが、昨年度と比較して7%の減となっており、ワクチン接種での全館利用が減ったことが原因として考えられる。 次年度以降は平年どおりの会館利用になることから、「会館利用人数に対するエネルギー使用量の割合」を向上させるよう、施設利用者数の向上と効率的なエネルギーの使用を心掛けたい。
B & G海洋センター	施設利用者や自主事業への参加者を対前年度比5%増を目標とし、1人当たりの環境負荷を減らす。	施設を利用する教室やカヌー教室等の魅力的な企画を考案し、広く住民に告知することで更なる集客を図る。	施設利用者【第1四半期】前年比63%増 施設利用者【第2四半期】前年比29%増 施設利用者【第3四半期】前年度10%増 施設利用者【第4四半期】前年度8%増	今年度は新規教室も開催できたため、エネルギー使用量が増加したが利用者数も多かった。 来年度も施設利用や自主事業への参加者を増やせるように、魅力的な企画を考案し1人当たりの環境を軽減できるように集客していく。 今年度から利用者一人当たりの電気、灯油の使用量を算出した。参考として令和4年度と比較して電気・灯油とも一人当たりの使用量は抑えられた。 施設利用者数 R5:10,403人 R4:8,566人 プール利用者数 R5:2,939人 R4:2,027人 施設利用者一人当たりの電気使用量 R5:5.72KWH R4:5.81KWH プール利用者一人当たりの灯油使用料 R5:1.3ℓ R4:2.2ℓ

3 小中学校

令和5年度 町内小中学校の取組実績及び評価

校名	件名	活動内容	活動の成果・今後の展望
本川根小学校	【上半期】 地域の自然に親しみ大切にしていこう	【上半期】 令和5年5月24日（水） ○学区の接岨地区にて「ネイチャービンゴピクニック」を行い、豊かな自然環境保全に対する意識を高めた。（全校） 令和5年6月5日（月） ○学校園にさつまいもの苗さしを行った。エナジーファームの方に来ていただき、さし方や育て方について話を聞き、収穫の日を楽しみに苗を挿した。（全校）	・ネイチャービンゴでは、普段見過ごしていた草花や樹木、川や石などに着目し、その面白さや特色に気づくことができた。班の友達と協力しながら、たくさんのミッションにチャレンジし、楽しく活動することができた。改めて、地域の自然をこれからも大切にしていきたいという気持ちを膨らませることができた。 ・さつまいもの苗さしは、緑の少年団を中心に行い、講師の方に教えていただきながら、栽培活動への意欲が高まった。
	【下半期】 学校を彩る花を育てよう	【下半期】 令和6年1月15日（月）～3月13日（水） 6年生・・・新しく入学する新入生のために、ビオラとパンジーの苗をプランターに植え育てた。 1～5年生・・・卒業生への感謝の気持ちを込めて、ビオラとパンジーの苗をプランターに植え育てた。 2、3年生・・・緑の少年団として、花壇の彩りをさらによくするために、様々な種類の苗を花壇に植え育てた。	・一人一人が、非常に手際よく、優しい気持ちで一生懸命取り組むことができた。 ・児童は意欲的かつ協力的に活動していた。その後、プランターは自分たちの教室のベランダに移動し、毎日当番が水やりを行ったり、花摘みを行ったり積極的に世話をする姿が見られた。 ・緑の少年団の児童の中には、毎日花壇の水やりをする中で、自分の植え付けた苗に対して愛着が湧いてきている児童の姿も見られた。 今後も植物を世話するということを通して、生き物への優しさを培っていきたい。

令和5年度 町内小中学校の取組実績及び評価

校名	件名	活動内容	活動の成果・今後の展望
三ツ星小学校	【上半期】 緑のカーテン	【上半期】 (ねらい) あさがおを栽培し、緑のカーテンを作ることを通して、子どもたちの環境緑化についての意識を向上させる。 (活動内容) ・あさがおの苗植え ・朝昼の水やり、花の世話 令和5年7月3日(月)	子どもたちは、栽培活動に興味をもち、真剣に苗を植えることができた。その後、あさがおの生長を楽しみにしながら、水やりや世話をする姿が見られた。 また、完成した緑のカーテンを見て、子どもたちは、環境緑化についての意識も向上したようだった。
	【下半期】 社会:「森林とともに生きる」	【下半期】 (ねらい) 社会「森林とともに生きる」の学習において、林業に携わる方の話を聞くことを通して、森林を守り育てる人々の工夫や努力、林業が抱える課題をとらえ、森林を守り続けるために大切なことを考える。 (活動内容) ○林業に携わる板谷康平さんから「林業について」話を聞いた。 ・林業の現状や課題 ・森林を守り育てるうえでの工夫や努力 ・林業の活性化をめざすための取り組み など 令和6年3月13日(水)	子どもたちは、実際にチェンソーなど作業に使う物を見せながら話をする板谷さんの姿から、林業について知り、理解を深めることができた。 ・林業に携わる人が年々減ってきていること ・森林が減少していること ・間伐をすることで元気な森林になること などを学ぶことができた。 また、のこぎりで木を切り、やすりで磨く作業を体験したことで、子どもたちは、木の香りや手触りを楽しみ、環境保全についても関心をもったようだった。

令和5年度 町内小中学校の取組実績及び評価

校名	件名	活動内容	活動の成果・今後の展望
本川根中学校	【上半期】 県環境教育プログラム体験	【上半期】 ホールアース自然教室による教材(アクティビティ)を体験し、生徒が感想を伝えたり、新聞作成を行ったりした。 (1) 榎島ロッジでの体験学習(5月14日～15日) ・丸太切り、木のアクセサリ作り(ノコギリで丸太を薄切りし、アクセサリを作った) ・ナイトハイク(夜の榎島をハイキングし五感で自然に触れた) ・元赤石岳避難小屋管理人 榎田さんによる南アルプススペシャルトーク) (2) 本川根中学校での体験学習(6月16日) ・南アルプスクイズに挑戦 ・現場パトロール活動模擬体験(タイムトライアル・懸垂下体験・トイドローン体験)	どちらの体験学習も南アルプスを身近に感じる事がものであった。生徒の中には、「ぜひ南アルプスでの登山に興味を持ち、挑戦してみたいと思った。」「ダムについて考えるきっかけとなった。」「榎島ロッジ周辺の森林に入り、ネズミの巣、鹿の糞から野生動物の生活の様子を想像できた。」「千枚岳への登山道には吊り橋があり、美しい渓谷と川を見ることができた。」等の感想があった。 この体験を通して、地域の自然に興味関心を持つこと、自然に触れるだけでなく共に生きる、生活するためにどのようにしたらよいか(生物の保全、ダムの問題、人口流出など)を考えるきっかけとなった。 榎島ロッジでの体験や南アルプスクイズの感想を今後の教材に開発に反映させてほしい。
	【下半期】 学習発表会	【下半期】 5月から生徒一人一人がテーマを持って追及してきたPR(Personal Research)発表を行った。 (1) 発表内容 ・「イモリの養殖場を本川根中学校に」 ・「川根本町を代表する食材に自然薯を」 ・「中学校のプールでヤマメは養殖できるのか」 ・「ジビエで川根本町を救おう」 (2) 展示(配布)物 ・生徒が育てたさつま芋をエナジーファームさんの協力により干し芋にして配布した。 ・生徒がジビエを使ってビーフシチューと燻製肉を調理し配布した。 令和5年12月9日(土)	PR発表では、環境、生物、川根本町の魅力などの切り口で生徒独自の追究をおこなった。その過程では町内の多くの方の協力をいただいた。生徒の発表を聞いた保護者や地域の方からは発表内容のレベルや発想、子供ならではの視点などに興味を持ってもらうことができた。 さつま芋をテーマにした生徒たちが学校の花壇でさつま芋の栽培を行った。エナジーファームさんの協力により、芋を切る体験や干す体験を行い、1つの商品が出来上がるまでに多くの過程人の手が必要なことを実感できた。

令和5年度 町内小中学校の取組実績及び評価

校名	件名	活動内容	活動の成果・今後の展望
中川根中学校	『あすなるDAY』 『赤い羽根募金活動』	・毎週水曜日を「あすなるDAY」とし、環境委員会でアルミ缶、牛乳パック、エコキャップの回収を行った。前日の全校生徒へ周知、当日朝の回収の呼びかけなどを、福祉委員を中心に行った。回収により得られたお金で、町内の福祉施設に車イス等の寄付を行う予定である。(4月から3月まで、毎週水曜日を中心とする毎日) ・赤い羽根共同募金活動を1週間の期間行い、多くの生徒や教師が募金活動に参加してくれるよう、呼びかけを行う。	○「あすなるDAY」では、多くの生徒に参加してもらうために、前日には昼の放送で呼びかけや先週の結果報告を行い、当日朝には福祉委員が昇降口に立って呼びかけを行った。その結果、生徒の「あすなるDAY」の意識を高めることができ、参加率向上へと繋がった。 ○赤い羽根募金で集まったお金は、社会福祉協議会を通して地域のお年寄りや様々な福祉活動につながった。生徒の福祉に対する関心が高まった。 ○回収したエコキャップは、福祉委員で町役場に届け、その様子を全校へ知らせ、回収したものの用途を知ることで生徒の福祉に対する関心を高めることができた。

(5) 目標年度に向けての取組

○二酸化炭素総排出量の削減目標

(kg-CO2)

(基準値) H27 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	(目標年度) R8 年度	削減率 (%)	削減量
1,877,256	1,407,942 25%削減	1,370,396 27%削減	1,332,851 29%削減	1,295,306 31%削減	31	581,950

○ゴミ排出量の削減目標

(kg)

(基準値) H27 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	(目標年度) R8 年度	削減率 (%)	削減量
10,338	9,831 4.9%削減	9,759 5.6%削減	9,686 6.3%削減	9,614 7.0%削減	7.0	724

○紙使用量の削減目標

(枚)

(基準値) H27 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	(目標年度) R8 年度	削減率 (%)	削減量
1,651,350	1,205,485 27%削減	1,139,431 31%削減	1,073,377 35%削減	1,007,323 39%削減	39	644,027

○水使用量の削減目標

(m³)

(基準値) H27 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	(目標年度) R8 年度	削減率 (%)	削減量
37,810	36,751 2.8%削減	36,600 3.2%削減	36,448 3.6%削減	36,297 4.0%削減	4.0	1,513

○グリーン購入率目標

(%)

(基準値) H27 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度	(目標年度) R8 年度	購入率 (%)	向上率
72	79 7%向上	86 14%向上	93 21%向上	100 28%向上	100	28

4 令和5年度の活動の紹介

(1) 緑のカーテン実施・啓発



夏季の暑さ対策と電力使用量の削減を目的として、庁舎に緑のカーテンを設置して 19 年目になります。今年も朝顔で高さ 5m、幅 10m の緑のカーテンを作りました。また、この緑のカーテン普及促進のため、設置希望のあった地区と学校に土やプランター、ネット、種の配付も行いました。



(2) 川根本町の自然について学ぶ（ふるさと発見団）



子供たちが我が町を知り理解を深める機会として例年実施するふるさと発見団を本年も 4 回実施しました。

第 1 回 大井川の学習、新茶飲み比べ

第 2 回 ロープワーク、あまごのつかみ取り、ホットドッグ作り、川遊び

第 3 回 キャベツの収穫、お好み焼きづくり、村づくりの見学

第 4 回 大根そばづくり、パワースポット巡り



(3) 地域緑化支援事業の実施



9月と11月に町内の花の会を対象として、地域緑化を促進するため球根や種などの資材を配布しました。

町内で活動している花の会より配付希望を受け、秋植えの球根や種、培養土、肥料などを、計13団体に配付しました。

春には町内各地で色とりどりのきれいな花が咲き、見る人の目を楽しませました。



(4) 大井川を学ぶ視察会



今年度は、上流域の町としてのあり方や地域資源としての大井川について学ぶため、田代ダムや燕沢を視察し、事業への理解を深めました

視察域	開催日	参加者数
≪源流域≫ 赤崩 → 田代ダム → 燕沢	令和5年10月29日	17名



（５）大井川を知る総合学習「大井川出前講座」



子どもたちに大井川の現状とその環境について広く知ってもらうことを目的とした大井川出前講座を、流域の小学校５校で開催しました。

児童たちは、大井川の歴史をたどり、変化する大井川の役割と現状を学びました。

開催校	開催日	対象者	
御前崎市立 白羽小学校	令和5年10月4日	4年生	32人
菊川市立 内田小学校	令和5年10月6日	4年生	28人
島田市立 神座小学校	令和5年10月12日	5年生	12人
掛川市立 西山口小学校	令和5年10月26日	4年生	99人
牧之原市立 坂部小学校	令和5年10月30日	4年生	22人
計	5回		193人



5 町が実施する町民向け補助事業

川根本町では、環境負荷の少ないエネルギーの利用、資源有効利用、地球温暖化防止、町民との協働による自然に癒されるふるさとづくりの推進等を目的に、以下の補助金制度を実施しています。

(1) 川根本町クリーンエネルギー機器導入促進事業費補助金



太陽光発電システム等を設置する場合の購入費用及び設置費用を助成します。

【令和5年度の実績】

区 分	件数	補助金交付額
太陽光発電システム	3	300 千円
太陽熱温水器	8	400 千円
エコキュート	28	1,400 千円
潜熱回収型	11	330 千円
リチウムイオン蓄電池	5	500 千円
計	55	2,930 千円

(2) 川根本町生ごみ減量促進事業費補助金



生ごみ処理機等の購入費用を助成します。

【令和5年度の実績】

区 分	件数	補助金交付額
乾燥式	4	140 千円
容器式	6	32 千円
計	10	172 千円

(3) 川根本町合併処理浄化槽設置整備事業費補助金



合併処理浄化槽の設置費用を助成します。

【令和5年度の実績】

区 分	件数	補助金交付額
合併処理浄化槽	10	5,914 千円

(4) 川根本町防犯灯整備事業費補助金



防犯灯整備事業を実施する区自治会に対し、補助金を交付します。

【令和 5 年度の実績】

区 分	件数	補助金交付額
新設（支柱新設）	1 基	274.7 千円
新設（電柱共架）	1 基	
交換	17 基	

6 環境関連法規等の順守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

令和５年度において、環境関連法規の遵守状況を確認した結果、法令違反や事故、異常事態の発生は報告されておりません。

また、過去３年間にわたって違反・訴訟もありません。

令和６年３月３１日

環境管理責任者 秋元 伸哉

○関係法令

法律名	関係業務	関係課	遵守状況
環境基本法	・環境関連施策全般	全庁	○
気候変動適応法（2018/12/12）	・地域気候変動適応計画の策定	全庁	○
循環型社会形成推進法	・循環型社会の構築	全庁	○
地球温暖化対策の推進に関する法律	・町施設における温暖化対策 ・住民、事業所への働きかけ	全庁	○
国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）	・町施設における物品購入、使用時の環境配慮	総務課 全課	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・廃棄物関連施策の実施 ・事業から排出される廃棄物の処理	全庁	○
資源の有効な利用の促進に関する法律（リサイクル法）	・庁舎におけるごみの分別、再利用等 ・分別収集の啓発	くらし環境課 総務課 他	○
プラスチック資源循環促進法	プラスチック使用製品廃棄物の分別基準を策定し、その基準に従って適正に分別して排出されるよう町民の皆様に周知し、再商品化に努める	くらし環境課 総務課 他	2022/4/1 ～施行
容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進に関する法律（容器包装リサイクル法）	・廃棄物関連施策の実施 ・事業から排出される廃棄物の処理	全庁	○
特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）	・特定家電製品の廃棄、リサイクル券の購入	総務課 特定家電使用課	○
食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律（食品リサイクル法）	・食物残渣等の発生抑制リサイクル	給食センター 各保育園	○
食品ロス削減推進法（2019/11/1～）	・食品ロス削減の推進（地域特性に応じた施策の策定、実施）	給食センター 各保育園	○
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）	・公共事業における建設廃棄物の再資源化と再利用の促進 ・地域における資材の再資源化の促進	建設課 関係課	○

法律名	関係業務	関係課	遵守状況
使用済自動車の再資源化等に関する法律（自動車リサイクル法）	・公用車の廃車時における環境配慮 ・購入・更新・車検時のリサイクル券の購入	関係課	○
水質汚濁防止法	・庁舎・施設からの排水の基準遵守	総務課 各施設	○
大気汚染防止法	・ボイラ等のばい煙発生装置の使用 ・ボイラ及び冷温水発生機の使用	海洋センター	○
騒音規制法	・公共事業における騒音への配慮（重機・工事現場） ・特定施設の届出（空気圧縮機及び送風機）	建設課 関係課	○
振動規制法	・公共事業における振動への配慮（重機・工事現場） ・特定施設の届出（圧縮機）	建設課 関係課	○
悪臭防止法	・地域における悪臭の防止	くらし環境課	○
エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)	・エネルギー使用量の把握 ・省エネの推進	総務課 くらし環境課 全庁	○
浄化槽法	・適正な浄化槽の管理	総務課 関係施設	○
消防法	・石油製品の大量貯蔵	海洋センター	○
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理に関する特別措置法	・PCB の適正な管理及び処理	総務課 教育総務課	○
フロン排出抑制法	・エアコン、冷凍冷蔵庫の定期点検の実施	総務課 関係施設	○



7 内部環境監査の結果報告

内 部 環 境 監 査 報 告 書

令和5年度の内部環境監査は令和4年度2月に実施したエコアクション21内部環境監査の結果及び令和5年6月に実施したエコアクション21中間審査の結果を踏まえ、令和6年2月21・22日に実施をしました。

その結果につきまして、次のとおり報告いたします。

監査対象部門	総務課、議会事務局、会計課、経営戦略課、デジタル推進課、税務住民課、くらし環境課、健康福祉課、三ツ星保育園、桜保育園、高齢者福祉課、産業振興課、農林業センター、茶茗館、建設課、観光交流課、音戯の郷、教育総務課、学校給食共同調理場、社会教育課、文化会館、本川根B＆G海洋センター 22部門	
監 査 基 準	エコアクション21ガイドライン2017年版	
監 査 結 果	運用に支障をきたす不適合	0件
	軽 微 な 不 適 合	0件
	改 善 提 案	4部門4件
監 査 実 施 日	令和 6 年 2 月 21・22日	
講 評	2017年版ガイドラインの要求事項を踏まえて、22部門の内部環境監査（監査）を実施した結果、不適合指摘はありませんでしたが4部門で4件の改善提案事項を指摘しました。 改善対応実施状況のフォローアップと成果確認を次年度内部環境監査で実施します。	

令和 6 年 3 月 12日

内部環境監査委員長 秋元 伸哉

8 代表者による評価と見直しの結果

本町でのエコアクションの取り組みも、平成20年度以来16年目となりました。地域をはじめ、地球環境への負荷を極力減らし、持続可能な環境保全を目標として取り組みを続け、職員の中では最早当然の取り組みとして認知されてきております。

本町は南アルプスユネスコエコパークの緩衝地域として、後世に残すべき素晴らしい景観と、文化的な生活の営みを両立させる地域として位置づけられ、計画では町が目指す景観の姿を「人の営みにより育む、自然と調和した魅力と活力のある景観」としています。

目標の実現には、環境への配慮も益々重要となります。政府から「2050 カーボンニュートラル」も掲げられ、今後、温室効果ガス排出削減についてはますますその取組が加速していくはずです。美しく広大な森林を資産として有する我が町が率先して取り組み、我が町から広く発信し、世界的なムーブメントに繋げられる重要な役割を担うものだと思っています。

令和5年は最も重要視する温室効果ガス総排出量の目標は平成27年度比25%削減を掲げましたが、14%削減という結果になりました。年々上がる目標に対し、目標達成は困難を極めてまいりますが、歩みを止めることなく『水と森の番人』としての使命を果たしてまいり所存です。

本町の取り組みが、日本国内にとどまらず、世界に誇れる姿となるよう、今後も地域の人々の暮らしと産業及び経済を支え、自然を守る番人として、町の財産でもある豊かな自然を守りつつ活かしながら、“自然と共生する豊かなまち 川根本町”を実現できるよう、今後もまちづくりを進めてまいります。

令和6年5月31日

川根本町長 藺田 靖邦

